



1月の園だより

令和8年1月5日
目黒区立中町保育園 園長

新しい年をご家族とともに迎えられたことだと思います。

園庭を縦横無尽に走り回る子どもたちの声が、園内にも心地良く響きます。0歳児が這い這いで目指す先には両手を広げて「おいで」と待つ保育士がいて、まっしぐらに向かい、腕の中に包まれる光景は幸せの二文字です。保育士との1対1の関係性から2人、3人…と遊びを通して輪が広がり、4・5歳児になると集団遊びの中心は鬼ごっこです。4歳児が覚えたての『どろけい』をやっていますが、警官2人に対して6人もいる泥棒たちのチームワークがバラバラで、いつまでたっても仲間を助け出せません。遊びの最初はいつだってそんな感じで、5歳児になると両者ともに作戦会議を経て巧妙な駆け引きが加わることで、遊びの展開に奥行きが生まれます。見えてくる子どもたちの姿は異なるけれど、共通しているのはどの年齢にも必ず『見る（観る）』→『真似る』時期があることです。見て、真似るにはモデルとなる存在が必要で、異年齢で過ごす保育園はまさにその環境にあると言えます。少しずつ形になりつつある4歳児のどろけいも5歳児というモデルあっての姿だと思うと、子どもたちの間で遊びも生活もしっかりと伝承されていることを嬉しく感じます。

一緒に過ごす喜びや楽しさを分かち合う仲間の存在があることで、いつも以上に人ととのつながりを感じる年明けです。園目標【心も体も元気な子ども】に大人たちを付け加え、心が平穏で、自分らしくいられる一年間でありたいと願っています。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

【行事予定】

新年お祝い会（全園児）

お店屋さんごっこ（3・4・5歳）

※0～2歳児はお客様として参加します

中旬 身体計測 避難訓練

【クラス懇談会】

3歳児クラス 16:30～17:30

4歳児クラス 16:30～18:00

2歳児クラス 16:30～17:30



ほし組（3歳児）

つながって ひろがって 物語がはじまる…



線路に電車を走らせている子がいると「入れて」と2人の子がやってきました。「いいよ」と受け入れますが、メンバーが4人になったことで線路は短く、空間は狭く、電車や体がぶつかってしまうため、長くつなげることにしました。「もっと長い線路にしよう」と広い線路のスペースが完成すると「緊急停車ボタンのある踏切を作る」と井型ブロックで作ったり「線路（の近く）にはお家がいっぱいあるよね」とマグネットの玩具で家を作ったり、更にはその一軒ずつに動物を住まわせています。4人の電車が同じ線路に向かうと渋滞が発生します。保育士が「渋滞しているね」と言うと「それじゃ、信号機を作ったらいんじゃない」と提案があり、別の子からは「駅も作ろうよ」と意見が出て遊びが発展していきます。往路と復路が完成し、電車がすれ違う度に「○○くん電車おはよう」「良い天気ですね」「今日はどこに行くの」と会話も弾んでいました。様々な玩具を使って立体的に表現する力がつき、友達と気持ちをつなげながら遊ぶ姿へと変化しています。



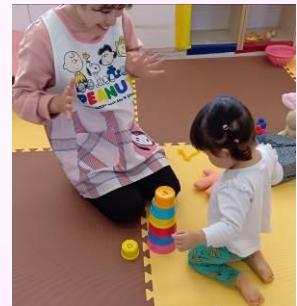
ほくも！
ねんじょ！

やってみたいな！

～子どもたちの中に広がる 小さな世界～

もも組(0歳児)

子どもたちの好きな玩具の一つに重ねカップがあります。保育士が「高くな～れ…」と歌いながらカップを積み重ねると、這い這いでまっしぐらに向かってき、嬉しそうに倒します。ある子は「た～かく…」と歌いながら自分で高く積み重ね「できた」と教えたり、カップを皿やコップに見立てて保育士と食べ真似を楽しんだりしています。またある子は、カップを両手に持ち“力チカチ”と打ち合わせた時の音や両手に伝わる振動を感じ、音に合わせてわらべうたを歌うと更に喜び、繰り返し楽しんでいます。同じ玩具でも月齢や発達によって遊び方は異なりますが、どの子からも楽しい気持ちが伝わってきます。保育士と一緒にやり取りを楽しみながらいろいろな玩具に触れ、安心した気持ちで遊びを広げられるようにしていきます。



たんぽぽ組(1歳児)

段ボールの仕切りで作る空間が、子どもたちが安心して遊べる場所となっています。空間の中で慎重に積み木を一個ずつ積み上げている子がいました。自力で高く積み上げると「みて」と嬉しそうに保育士に知らせます。仕切りの中を見立て、生活の模倣遊びを始める子もいます。電気のスイッチを押して「暗いよ」とつぶやくと、近くに居る友達もぬいぐるみを持って来て「おいで、ねんねよ」と一緒に寝そべりました。目覚めると仕切りの一部を開け、ぬいぐるみと一緒に買い物に出掛けます。一人ひとりの空間が守られることで安心して遊ぶことができ、やがて“やってみたい”“一緒に遊びたい”と友達への興味ややり取りにつながり、遊びが更に広がっています。



ちゅうりっぷ組(2歳児)

白衣を着て聴診器をぶら下げたお医者さんが数人、保育士を診察しています。「どうしたんですか」と聞かれ「お腹が痛いです」と答えると、聴診器をあてて「お菓子の食べすぎです」「ジュースの飲みすぎです」と診断されました。日常の体験の中で言われたり聞いたりした事をごっこ遊びのやり取りに取り入れながら、お医者さんになりきっています。「もしもし」と聴診器そのものが病気を治す道具になるのも2歳児のごっこ遊びの面白さです。注射を打たれた保育士が表情を変えずにいると「『痛い』って泣いて」と要望がありました。大袈裟に泣く真似をすると「痛いですよね。頑張ってください」と笑っています。診察後「おもちゃはどれがいいですか」と頑張ったご褒美まで用意してくれる素敵なか病院でした。語彙が豊かになり、言葉でのやり取りも楽しみながら、ごっこ遊びが盛り上がりを見せています。

